地域スポーツクラブに関する研究
―― その予備的考察 ――

新　谷　崇　一（一般体育理論・実技）

Ⅰ　はじめに

学校体育から社会体育へのスムーズな移行には，個人のスポーツに対する積極的な意欲と，またそれを受け入れる施設，指導者，仲間という行政側からの充実した対応も要求される。

戦後，わが国は高度成長を実現し国民に余暇，自由時間の増大をもたらし，また週休二日制も除々に取り入れられるようになってきた。このような余暇，自由時間の増大や週休二日制の導入はスポーツ実施率にも変化をきたし，昭和47年の１年間のスポーツ実施率は60%，昭和51年は65%，昭和54年は68%と除々に上昇している[1]。

しかし，余暇，自由時間の増大に伴なってスポーツ実施率は増加したものの，逆に，運動不足を感じる国民は，昭和51年に50%であったのが昭和54年には57%と上昇している[2]。このことは，スポーツに接する機会は増加したものの，学校体育という枠の中で育成された，いわゆる与えられたスポーツを受身的に実施するという受動的なスポーツ習慣は，社会体育という個人の積極的な参加が要求されるスポーツ活動においては必ずしもその機会が有効に活用されているとは限らないことを物語っている。

しかし，道路や公園でのジョギング姿や，地域や職場におけるスポーツクラブ，あるいは各種のスポーツ教室の急増は国民のスポーツ行動欲求の現われであり，人間性の回復，健康への関心度の高揚とみなすことができる。

そこで，本研究は特に目覚ましい発展を遂げている地域スポーツクラブに着目し，とりわけ女性に親しまれ，愛好者が増加している家庭婦人バレーボールクラブを対象として，婦人が地域に根差したスポーツクラブに加入し，活動する姿を探究することとした。このことは，地域スポーツクラブの実態把握と今後の発展の手掛りを見い出すものであり，現代の婦人層におけるスポーツ行動の指標ともなりうる。また，余暇，自由時間の増加に伴ない流行に便乗して，無目的にスポーツ行動を起こしている国民に対して何らかの示唆を与えるものと考えられる。

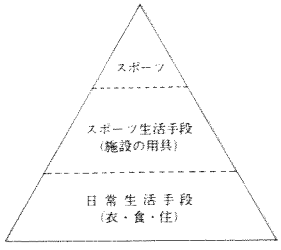
本研究を進めるにあたって以下のような手順にて行う。

まず，本論文においては家庭婦人バレーボールクラブの考察に入る前の予備段階として，スポーツクラブ活動の成立基盤と，スポーツクラブ活動における時間的経過に伴う主体的事柄，継続事柄及び客体的事柄について述べることとし，次稿において考察の段階に入ることとする。

なお，本論文で使用する“スポーツクラブ活動”とは，“スポーツクラブの活動”を意味するものではなく，“スポーツクラブに対する個人の参与”を意味するものとして捕えている。

Ⅱ　スポーツクラブ活動の成立基盤

スポーツを持続的に行うためにはそれを支える経済的・物質的基礎，前提条件が必要である。図Ⅱ-1[3]のように，スポーツを行うには「日常生活手段を土台としてはじめて，自らの身体的，精神的能力を高め，スポーツのトレーニングを持続することができる。さらに，そのスポーツ行動を行うためにはグランド，体育館などの施設やボール，スパイク，ユニフォーム，その他のスポーツ用具など，いわゆるスポーツ生活手段が必要である[4]」と言われる。つまり，「われわれの



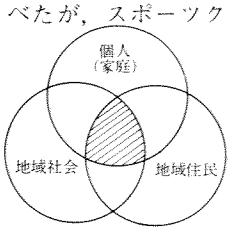
図Ⅱ-1　スポーツの経済的・物質的基礎

日常のすべての生活は，社会的分業によって条件づけられ[5]，単にスポーツだけを切り離して別個の活動と考えるのではなく，現実の社会の諸関係によってスポーツ活動も成り立つものである。

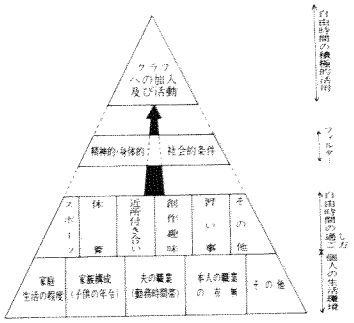
このことは同様に，地域におけるスポーツクラブ活動にも適応できる。地域におけるスポーツ活動は，図Ⅱ-2のように個人と地域住民と地域社会との相互関連によってその構造，性格は決定される。そして，図Ⅱ-3のように個人の生活環境によって生み出された自由時間の積極的な活用によってスポーツクラブ活動は成り立つものである。

地域におけるスポーツクラブの構造，性格はかなり地域社会そのものと相互に関連し合っている。換言すれば，その地域社会の反映であるとも言える。従って，その個人がどのような地域社会，つまりどのような地理的環境，歴史的風習のもとに居住しているか，また，どのような地域住民，つまりどのような年令，職業構成のもとに居住しているかによって，クラブの成立から構造，性格までが決定される。

しかし，地域における既成のスポーツクラブでの活動は，最終的には個人の積極的なスポーツ意欲によるものであるが，それを助長するものとして二つの基盤が必要とされる。先に，スポーツの持続にはまず「日常生活手段」が必要であると述べたが，スポーツクラブ活動において，これに相当するものが図Ⅱ-3の「個人の生活環境」である。つまり，個人がスポーツクラブ活動を行うということは，まず「家庭生活の程度」(表Ⅳ-3)[6]という経済的基盤，また特に子供の年令，親との同居という「家族構成」(表Ⅳ-4)，夫の職業の「勤務時間帯」(表Ⅳ-5)，本人の「職業の有無」(表Ⅳ-6)等という前提条件の基盤の上に成り立つ「自由時間の量」(表Ⅳ-7)がまず必要である。そして，次にそれをいかに有効に使用するかという「自由時間の具体的な過ごし方」(表Ⅳ-8)が問題とされる。



図Ⅱ-2　地域における
スポーツクラブの構成



図Ⅱ-3　スポーツクラブ活動の
成立基盤

また，「スポーツ生活手段」に相当するものが図Ⅱ-3の個人の「精神的，身体的，社会的条件」と考えられる。つまり，個人の生活面のゆとりとか，ハリという精神的条件，年令とか体調という身体的条件，施設，仲間という社会的条件がそれであり，個人の生活環境によって生まれた自由時間が，精神的，身体的，社会的条件というフィルターを最終的に通過して生まれた自由時間の活用がスポーツクラブ活動である。

このように，スポーツクラブ活動は「個人と地域社会と地域住民との関連」はもとより，「個人の生活環境」と「精神的，身体的，社会的条件」という二つの基盤によって支えられ成り立っていると考えられる。

Ⅲ　スポーツクラブ加入及び活動から継続に伴う主体的事柄，継続事柄，客体的事柄

また，スポーツクラブ活動は現在ある個人の生活環境等からのみ問うのは不十分であり，表Ⅲ-1のように過去，現在，未来という時間的経過からも把握する必要がある[7]。つまり，個人の生活過程において，過去をスポーツクラブへの「加入」，現在をスポーツクラブでの「活動」[8]，未来をスポーツクラブ活動の「継続」とおき，それぞれの時点に対して主体的事柄，継続事柄，客体的事柄の三点から眺めることも必要である。

まず，主体的事柄においては主に過去と現在にその重点が置かれる。過去，つまりクラブへの加入であるが，この時点で考えられるのが「スポーツクラブへの加入の動機」(表Ⅳ-9)，年令に伴う問題としての「加入時における精神的，身体的な抵抗の有無」(表Ⅳ-10)，また，「過去（学校時代）におけるスポーツクラブ所属の有無」(表Ⅳ-11)である。これらの三項目はスポーツクラブ加入時における年令と関って，時には励みとなりまた大きな抵抗ともなり，スポーツクラブ活動の開始として重要な要因である。

以上のような過去における主体的事柄により，今日のスポーツクラブ活動が存在する。そして，現在この活動を持続させる主体的事柄として，まず「現在のクラブへの所属年数」(表Ⅳ-12)が挙げら

表Ⅲ-1　クラブ加入及び活動から継続に関する事柄

	過　去（加　入）	現　在（活　動）	未　来（継　続）
主体的事柄	○年　令 ○スポーツクラブ所属の有無（表Ⅳ-11） ○クラブ加入の動機（表Ⅳ-9） ○クラブ加入時の精神的・身体的な抵抗（表Ⅳ-10）	○現在のクラブへの所属年数（表Ⅳ-12） ○クラブ加入後の変化 ・身体的側面の変化（表Ⅳ-14） ・精神的側面の変化（表Ⅳ-13） ・社会的側面の変化（表Ⅳ-15） ・家庭生活の変化（表Ⅳ-16） ○勤務後のクラブ参加の疲労（表Ⅳ-17）→ ○クラブ活動に対する子供の影響（表Ⅳ-18）→ ○クラブ仲間との交流の程度（表Ⅳ-19）→	
継続事柄	○…… ○…… ○……	→○クラブへの参加の位置づけ（表Ⅳ-20）→ →○クラブ活動時における子供への対処（表Ⅳ-21）→ →○家庭の理解度（表Ⅳ-22）→	
客体的事柄		○クラブ内の目標（表Ⅳ-23）→ ○コーチの存在（表Ⅳ-24）→ ○コーチの必要性（表Ⅳ-25）→ ○練習場（表Ⅳ-26）→ ○練習場までの利用交通手段（表Ⅳ-27）→ ○練習場までの所要時間（表Ⅳ-28）→	

れ，これは今日まで継続してきたというスポーツクラブ活動の実績として示される。また，現在までスポーツクラブ活動を行うことによって，様々な面にメリット，デメリットが現われてくる。それを「精神的側面の変化」(表Ⅳ-13)，「身体的側面の変化」(表Ⅳ-14)，「社会的側面の変化」(表Ⅳ-15)，「家庭生活の変化」(表Ⅳ-16) から把握することは“スポーツクラブの価値”を問うという根本問題にまで至り，今後スポーツクラブへ加入しようとする住民への重要な示唆となる。

また，主体的事柄の中で現在のスポーツクラブ活動から未来への重要な発展要因として「勤務後のクラブ参加の疲労度」(表Ⅳ-17)，「クラブ活動に対する子供の影響」(表Ⅳ-18)，「クラブ仲間との交流」(表Ⅳ-19) が挙げられる。特に，スポーツクラブへの加入及び活動に対する子供の影響は過去，現在，未来という時間的経過において大きな問題と考えられ，今後若年層の主婦にとってはスポーツクラブへの加入及び活動を大きく左右する要因である。また，クラブ仲間との交流はコミュニティという立場から，地域行事への参加というコミュニティ形成にまで発展していくものである。

次に，継続事柄としては主に「クラブへの参加の位置づけ」(表Ⅳ-20)，「クラブ活動時における子供への対処」(表Ⅳ-21)，「家庭の理解度」(表Ⅳ-22) の三項目が考えられる。この継続事柄においては現在の個人に関るものとして捕えているが，これは過去，現在，未来という時間的経過の中で常に個人のスポーツクラブ活動の持続要因として働きかけているものと考えられる。特に，家庭の理解度は婦人がスポーツクラブ活動に参与するということと同時に，家庭の束縛からの解放ということにおいても重要な問題である。

最後に，客体的事柄であるが，ここでは主に現在のスポーツクラブ活動そのものに直接関係する施設，指導者という問題を取り上げ，これらは未来のスポーツクラブ活動にどのように作用していくかを問うものである。その項目として「クラブ内の目標」(表Ⅳ-23)，「コーチの存在」(表Ⅳ-24)，「コーチの必要性」(表Ⅳ-25)，「練習場」(表Ⅵ-26)，「練習場までの利用交通手段」(表Ⅳ-27)，「練習場までの所要時間」(表Ⅳ-28) が挙げられ，特にクラブ内の目標はスポーツクラブのチームワークという意味において重要な事柄であり，またスポーツクラブの発展継続において施設，指導者の存在は必須条件であると考えられる。

Ⅳ　福島県家庭婦人バレーボールクラブ所属者の生活及びスポーツ実態調査について

以上のような観点から福島県家庭婦人バレーボールクラブ所属者の生活及びスポーツ実態調査を行った結果のデータは以下の通りである。なお，前述したように，本論文においては地域スポーツクラブに関する研究の予備段階に留めることとする。以下，調査方法，資料を記載する。

調査方法

福島県家庭婦人バレーボール連盟に登録する，県北，県南，いわき，相双，会津地区の各チームの責任者に調査用紙を送付し，その責任者から各クラブ員に調査用紙を配付し回収するという方法をとった。調査期日は昭和59年5月上旬から6月下旬までである。調査対象及び回収率は表Ⅳ-1の通りであるが，これは昭和58年7月現在の登録チームによるものである。

集　計　資　料

表Ⅳ-1　調査対象チーム，対象者数及び回収率

項目＼地区		県北	県南	いわき	相双	会津	計
58年度福島県家庭婦人バレーボール登録チーム数		36	23	54	27	13	153
調査対象チーム数		20	13	25	14	13	85
回収率	チーム数	15	11	14	12	7	59
	%	75.0	84.6	56.0	85.7	53.8	69.4
調査対象者数(人)		173	128	169	132	78	691
調査対象者総数に対する(%)		25.0	18.5	24.5	19.1	11.3	98.4

※所属地域不明者11名(1.6%)

表Ⅳ-2　調査対象者の年令構成

項目＼人	19才以下	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50才以上	無記不明
人	1	7	53	191	198	150	65	23	3
%	0.1	1.0	7.7	27.6	28.7	21.7	9.4	3.3	0.4

表Ⅳ-3　家庭生活の程度

項目＼人	上	中の上	中の中	中の下	下	無記不明
人	7	65	482	95	27	15
%	1.0	9.4	69.8	13.7	3.9	2.2

表Ⅳ-4　家族構成

項目＼人	夫婦二人	親子三人以上	三世代(親，本人，子供)同居	その他	無記不明
人	19	422	217	27	6
%	2.7	61.1	31.4	3.9	0.9

表Ⅳ-5　主人の勤務時間帯

項目＼人・%	人	%
昼間勤務で特別な時以外は夕方帰宅する	328	47.5
昼間勤務であるが週3～4回は残業がある	120	17.4
昼間，夜間の交代制(又は三交代)である	44	6.4
夜間勤務が主である	10	1.4
自営業のためほとんど在宅している	104	15.1
不在が多い（出張，単身赴任など）	28	4.1
その他	42	6.1
無記不明	15	2.2

表Ⅳ-6　対象者の職業

項目＼人	専業主婦	パートタイマー	会社員	公務員	自営業	農漁業	その他	無記不明
人	237	114	123	37	111	23	42	4
%	34.3	16.5	17.8	5.4	16.1	3.3	6.1	0.6

表Ⅳ-7　1日の自由時間

項目＼人	ほとんどない	1時間以内	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上	無記不明
人	25	34	120	178	130	191	13
%	3.6	4.9	17.4	25.8	18.8	27.6	1.8

表Ⅳ-8　1週間の自由時間の具体的な過ごし方

複数回答可

項目＼人・%	人	%
習い事（稽古事）	57	5.1
創作趣味（手芸，絵画など）	85	7.5
園芸，盆栽	37	3.3
学習活動（読書，通信教育など）	50	4.4
音楽鑑賞（レコード，FMなど）	25	2.2
スポーツ（体を動かすこと全般）	395	35.0
近所付き合い	151	13.4
何もせず(テレビを見ながら)休養にあてる	196	17.4
その他	104	9.2
無記不明	28	2.5

表Ⅳ-9　クラブ加入の動機

複数回答可

項目＼人・%	人	%
自分から積極的に	216	21.5
友達の勧誘により	368	36.7
健康のため	298	29.7
友人（話し相手）を得るため	34	3.4
単調な日常生活からの脱皮のため	44	4.4
テレビなどのバレーの試合に魅せられて	8	0.8
人がやっているのを見てなんとなく	7	0.7
その他	11	1.1
無記不明	18	1.8

表Ⅳ-10　加入時における精神的・身体的な抵抗の有無

項目＼人	ハイ	少しあった	イイエ	無記不明
人	34	204	434	19
%	4.9	29.5	62.8	2.7

表Ⅳ-11　過去におけるスポーツクラブ所属の有無

項目＼人・%	人	%
バレーボールクラブ所属の経験がある	353	51.1
バレーボール以外のスポーツクラブ所属の経験がある	205	29.7
スポーツクラブ所属の経験はない	117	16.9
無記不明	16	2.3

表Ⅳ-12　現在のクラブへの所属年数

年＼人	1年未満	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年以上	無記不明
人	83	112	122	85	59	225	5
%	12.0	16.2	17.7	12.3	8.5	32.6	0.7

表Ⅳ-13　精神的側面の変化

複数回答可

項目 ＼ 人・%	人	%
生活にゆとりが出てきた	19	1.9
日常生活にハリが出てきた	306	30.2
精神的に若返った	190	18.8
ストレスがたまらなくなり，気分爽快になった	226	22.3
以前より自信を持って行動するようになった	48	4.7
社交性が増した	132	13.0
あまり変化はない	69	6.8
そ　の　他	8	0.8
無 記 不 明	5	1.5

表Ⅳ-14　身体的側面の変化

複数回答可

項目 ＼ 人・%	人	%
体調が良くなった	381	40.3
食欲が旺盛になった	51	5.4
体力が増した	125	13.2
筋肉が引きしまり美しくなった	27	2.9
健康について関心をもつようになった	165	17.5
過労気味になった	16	1.7
あまり変化はない	140	14.8
そ　の　他	24	2.5
無 記 不 明	16	1.7

表Ⅳ-15　社会的側面の変化

複数回答可

項目 ＼ 人・%	人	%
仲間（友人）が増えた	502	47.7
視野が広がり話題が増えた	114	10.8
地域行事への参加が積極的になった	124	11.8
集団活動の喜びを味わえるようになった	151	14.3
スポーツに対する理解が増えた	116	11.0
あまり変化はない	24	2.3
そ　の　他	5	0.5
無 記 不 明	17	1.6

表Ⅳ-16　家庭生活の変化

複数回答率

項目 ＼ 人・%	人	%
家庭の中に活気があふれてきた	100	10.2
炊事や清掃を短時間でキチッと行う様になった	236	24.0
家族も母親の行動（スポーツ，社会的活動）を理解するようになった	337	34.3
子供達も家事に協力的になった	122	12.4
練習や試合で時間が削られ家事に手を抜くようになった	25	2.5
練習や試合で時間が削られ家庭内の会話が減った	14	1.4
あまり変化はない	112	11.4
そ　の　他	15	1.5
無 記 不 明	22	2.2

表Ⅳ-17　勤務後のクラブ参加の疲労度

項目 ＼ 人	ハ　イ	イイエ	慣れると大丈夫	無記不明
人	12	223	176	39
%	2.7	49.6	39.1	8.7

表Ⅳ-18　クラブ活動に対する子供の影響

N=666

項目 ＼ 人	ハ　イ	少しする	イイエ	無記不明
人	66	224	319	57
%	9.9	33.6	47.9	8.6

表Ⅳ-19　クラブ仲間との交流

項目 ＼ 人・%	人	%
練習以外でも数人とは親しく行ききする	428	61.9
練習後にちょっと雑談する程度である	174	25.2
いろいろな条件があり，あまり交流はない	37	5.4
地域の行事など特別な時，協同で活動する程度である	28	4.1
無 記 不 明	24	3.5

表Ⅳ-20　クラブへの参加の位置づけ

複数回答可

項目 ＼ 人・%	人	%
一番重要な余暇活動の場	55	4.7
健康・体力の維持の場	457	38.9
仲間との情報交換の場	98	8.3
人間形成の場	34	2.9
生活を豊かに楽しくする場	69	5.9
気分転換，ストレス解消の場	438	37.3
そ　の　他	5	0.4
無 記 不 明	18	1.5

表Ⅳ-21　クラブ活動時における子供への対処

N=666

項目 ＼ 人・%	人	%
子供は夫か親が見てくれる	254	38.1
子供達で留守をしている	193	29.0
練習に一緒に連れていく	69	10.4
そ　の　他	66	9.9
無 記 不 明	84	12.6

表Ⅳ-22　家庭の理解度

項目 ＼ 人・%	人	%
クラブへの参加には積極的に協力してくれる	263	38.1
家庭に迷惑のかからない程度なら賛成してくれる	370	53.5
あまり協力的ではない	21	3.0
家庭（夫）は無関心である	13	1.9
無 記 不 明	24	3.5

表Ⅳ-23　クラブ内の目標

複数回答可

項目＼人・%	人	%
クラブ員の親睦を深める	327	29.1
クラブ員の健康を高める	90	8.0
クラブ員の技術向上	251	22.4
試合に勝つこと	108	9.6
楽しく皆で練習すること	303	27.0
特に目標はない	10	0.9
そ　の　他	1	0.01
無 記 不 明	33	2.9

表Ⅳ-24　コーチの存在

チーム数=59

項目＼人	い　る	いない
人	47	12
%	79.7	20.3

表Ⅳ-25　コーチの必要性

項目＼人	ハ　イ	イイエ	わからない	無記不明
人	602	26	43	20
%	87.1	3.8	6.2	2.9

表Ⅳ-26　練　習　場

チーム数=59

施設＼数・%	数	%
学校の体育館	49	83.1
公共（市，町，村営）の体育館	10	16.9

表Ⅳ-27　練習場までの利用交通手段

手段＼人	徒　　歩	自 転 車	バイク又は自転車	バスなど	無記不明
人	78	179	418	1	15
%	11.3	25.9	60.5	0.1	2.2

表Ⅳ-28　練習場までの所要時間

時間＼人	10分以内	15分以内	20分以内	30分以内	30分以上	無記不明
人	560	80	26	4	5	16
%	81.0	11.6	3.8	0.6	0.7	2.3

その他の集計資料

表-付-1　対象者の居住地

項目＼人・%	人	%
市街地（街の中心地，商店街も含む）	239	34.6
中心街から少し離れた住宅地	306	44.3
ニュータウンと称される郊外にある住宅地	34	4.9
農山村地区	65	9.4
漁 村 地 区	11	1.6
そ　の　他	13	1.9
無 記 不 明	23	3.3

表-付-2　日常生活で充実感を感じるとき

複数回答可

項目＼人・%	人	%
家族だんらんのとき	320	27.3
仕事にうちこんでいるとき	137	11.7
ゆったりと休養しているとき	72	6.1
友人や知人と会合，雑談をしているとき	112	9.6
趣味やスポーツに熱中しているとき	477	40.7
勉強や教養に身を入れているとき	12	1.0
社会奉仕や社会活動をしているとき	12	1.0
そ　の　他	14	1.2
無 記 不 明	16	1.4

表-付-3　子供の年令と人数

年令＼人・%	1人	2人	3人	計(人)	%
0～4才	93	30	6	129	13.2
5～6才	39	4	0	102	10.4
小学校1～6年	216	154	25	395	40.3
中学校以上	137	170	47	354	36.1
				980	100.0

表-付-4　チームのレベル

項目＼人・%	人	%
非常に強い(県大会などの代表になったりする)	24	3.5
強い(地区大会などで時々優勝する)	132	19.1
普通(大会に出て勝ったり負けたりの程度)	398	57.6
弱い（いつも1～2回戦で敗退又は楽しみを目的としているチーム）	134	19.4
無 記 不 明	3	0.4

表-付-5　練 習 回 数

チーム数=59

回数	月2～3回	週 1 回	週 2 回	週 3 回	週4回以上
	0	25	33	1	0
%	0	42.4	55.9	1.7	0

表-付-6　練 習 時 間

チーム数=59

時間数	1時間以内	1～2時間	2時間以上
	0	52	7
%	0	88.1	11.9

V　おわりに

本論文では「地域スポーツクラブに関する研究」の予備段階として，地域スポーツクラブの成立基盤とスポーツクラブ活動に伴う時間的経過から論を展開した。

これからの作業として，調査結果のデータを詳細に分析することにより，地域スポーツクラブの実態を把握し，今後の地域スポーツクラブの望ましい在り方の検討がある。また，特に主婦層のスポーツ行動の動向も探ってみたい。

本研究の調査にあたって御協力いただいた福島県家庭婦人バレーボール連盟理事長，熊田早苗氏をはじめ，県北，県南，いわき，相双，会津地区の各チームの責任者，ならびに調査の補助にあたった学生諸君に感謝の意を表わす。

注

(1)　総理府「体力・スポーツに関する世論調査」1979．10

(2)　前掲書

(3)　森川貞夫「スポーツ・アマチュアリズム研究の基本的課題――スポーツ労働論序説」影山健編『国民スポーツ文化』大修館書店，1977　P.389

(4)　前掲書　PP.388～389

(5)　前掲書　P.389

(6)　以下,「表Ⅳ-○」は，Ⅳ．福島県家庭婦人バレーボールクラブ所属者の生活及びスポーツ実態調査の集計資料に示すものである。

(7)　Ⅱ．スポーツクラブの成立基盤で述べた個人の生活環境の項目にも，時間的経過を意味する項目があるが，どちらに入れたらよりベターであるかによって区別してある。

(8)　ここでの「活動」は，現在スポーツクラブに加入してクラブ活動を行っていることを意味する。

参考文献

1．余暇開発センター編「余暇ハンドブック」1982
2．森川貞夫編「社会体育のすすめ方――コミュニティスポーツの育成と指導」総合労働研究書1980
3．斎藤源吾著「コミュニティスポーツ――その企画と推進」杏林書　1979
4．影山健編「国民スポーツ文化」大修館書店1977
5．文部省「これからのコミュニティスポーツ――スポーツ施設の有効活用の実際」1977
6．日本体育協会「日本人のスポーツ行動」1974

〔調 査 資 料〕

家庭婦人バレーボールクラブ所属者の生活及びスポーツ実態調査

昭和59年5月

I 現在のあなた及び家庭についてうかがいます。該当する番号に○をつけて下さい。

1. 年　　令

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
19才以下	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50才以上

2. 職　　業

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
専業主婦	パートタイマー	会社員	公務員	自営業	農漁業	その他

3. 御主人の勤務時間帯

①	昼間勤務で特別な時以外は夕方帰宅する
②	昼間勤務であるが週3～4回は残業がある
③	昼間、夜間の交代制（又は三交代）である
④	夜間勤務が主である
⑤	自営業のためほとんど在宅している
⑥	不在が多い（出張、単身赴任など）
⑦	その他

4. 家庭生活の程度

①	②	③	④	⑤
上	中の上	中の中	中の下	下

5. 家庭の家族構成

①	②	③	④
夫婦二人	親子三人以上	三世代（親、本人、子供）同居	その他

6. 子供のおられる方で、その子供の年令と人数を全員あげて下さい。

a　0～4才が

①	②	③
1人	2人	3人以上

b　5～6才が

①	②	③
1人	2人	3人以上

c　小学校1～6年が

①	②	③
1人	2人	3人以上

d　中学校以上が

①	②	③
1人	2人	3人以上

7. あなた自身、束縛されずに自由に使える時間は1日にどれ位おもちですか。

①	②	③	④	⑤	⑥
ほとんどない	1時間以内	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上

8. 7で答えた自由時間は一週間平均すると主にどのような過ごし方をしていますか（1～2つ選んで下さい。）

①	習い事（稽古事）
②	創作趣味（手芸、絵画など）
③	園芸、盆栽
④	学習活動（読書、通信教育など）
⑤	音楽鑑賞（レコード、FMなど）
⑥	スポーツ（体を動かすこと全般）
⑦	近所付き合い
⑧	何もせず（テレビなどを見ながら）休養にあてる
⑨	その他

9. 日常生活において、現在あなたが充実感を感じるときはどのような時ですか（1～2つ選んで下さい。）

①	家族だんらんのとき
②	仕事にうちこんでいるとき
③	ゆったりと休養しているとき
④	友人や知人と会合、雑談をしているとき
⑤	趣味やスポーツに熱中しているとき
⑥	勉強や教養に身を入れているとき
⑦	社会奉仕や社会活動をしているとき
⑧	その他

II あなたとクラブのかかわりについてうかがいます。該当する番号に○をつけて下さい。

10. 過去（学校時代）におけるスポーツクラブ所属の有無

①	バレーボールクラブ所属の経験がある
②	バレーボール以外のスポーツクラブ所属の経験がある
③	スポーツクラブ所属の経験はない

11. 現在のクラブへの所属年数

①	②	③	④	⑤	⑥
1年未満	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年以上

12. 現在のクラブへの加入の動機（1～2つ選んで下さい。）

①	自分から積極的に	⑤	単調な日常生活からの脱皮のため
②	友達の勧誘により	⑥	テレビなどのバレーの試合に魅せられて
③	健康のため	⑦	人がやっているのを見てなんとなく
④	友人（話し相手）を得るため	⑧	そ の 他

13. 現在のクラブへの加入に際して、精神的、身体的な抵抗はありましたか。

①	②	③
ハ イ	少しあった	イ イ エ

14. 「クラブへの参加」ということを、あなた自身においてどのように位置づけていますか（1～2つ選んで下さい。）

①	一番重要な余暇活動の場	⑤	生活を豊かに楽しくする場
②	健康、体力の維持の場	⑥	気分転換、ストレス解消の場
③	仲間との情報交換の場	⑦	そ の 他
④	人間形成の場		

15. 現在のクラブへ加入してからのあなた自身及び家庭の変化（a、b、c、d）についてそれぞれの項目から1～2つ選んで下さい。

a 身体的側面の変化（1～2つ選択）

①	体調が良くなった	⑤	健康について関心をもつようになった
②	食欲が旺盛になった	⑥	過労気味になった
③	体力が増した	⑦	あまり変化はない
④	筋肉が引きしまり美しくなった	⑧	そ の 他

b 精神的側面の変化（1～2つ選択）

①	生活にゆとりが出てきた	⑤	以前より自信を持って行動するようになった
②	日常生活にハリが出てきた	⑥	社交性が増した
③	精神的に若返った	⑦	あまり変化はない
④	ストレスがたまらなくなり、気分爽快になった	⑧	そ の 他

c 社会的側面の変化（1～2つ選択）

①	仲間（友人）が増えた	⑤	スポーツに対する理解が増えた
②	視野が広がり話題が増えた	⑥	あまり変化はない
③	地域行事への参加が積極的になった	⑦	そ の 他
④	集団活動の喜びを味わえるようになった		

d 家庭生活の変化（1～2つ選択）

①	家庭の中に活気があふれてきた
②	炊事や清掃を短時間でキチッと行う様になった
③	家族も母親の行動（スポーツ、社会的活動）を理解するようになった
④	子供達も家事に協力的になった
⑤	練習や試合で時間が削られ家事に手を抜く様になった
⑥	練習や試合で時間が削られ家庭内の会話が減った
⑦	あまり変化はない
⑧	そ の 他

16. 専業主婦以外の方で、勤務後のクラブ参加は非常につらいですか。

①	②	③
ハ イ	イ イ エ	慣れると大丈夫

17. クラブの練習や試合は主に夜間とか日曜日と思いますが、それに対して家庭の理解度はいかがですか。1つ選んで下さい。

①	クラブへの参加には積極的に協力してくれる
②	家庭に迷惑のかからない程度なら賛成してくれる
③	あまり協力的ではない
④	家庭（夫）は無感心である

18. お子様のおられる方にうかがいます。a、bのそれぞれから1つ選んで下さい。

a お子様の存在はクラブの練習に影響しますか。

①	②	③
ハ イ	少しする	イ イ エ

b あなたが練習している時、普段お子様はどのようにしていますか。

①	子供は夫か親が見てくれる
②	子供達で留守をしている
③	練習に一緒に連れていく
④	そ の 他

19. あなたの所属するクラブ仲間との交流はどの程度ですか1つ選んで下さい。

①	練習以外でも数人とは親しく行ききする
②	練習後にちょっと雑談する程度である
③	いろいろな条件があり、あまり交流はない
④	地域の行事など特別な時、協同で活動する程度である

Ⅲ あなたの所属するクラブについてうかがいます。該当する番号に○をつけて下さい。

20. 練習回数（シーズン中の平均）

①	②	③	④	⑤
月2～3回	週 1 回	週 2 回	週 3 回	週4回以上

21. 練習時間（平均）

①	②	③
1時間以内	1～2時間	2時間以上

22. 練習場までの利用交通手段

①	②	③	④
徒 歩	自 転 車	バイク又は自動車	バ ス な ど

23. 練習場までの所要時間

①	②	③	④	⑤
10分以内	15分以内	20分以内	30分以内	30分以上

24. 主な練習場

①	②
学 校 の 体 育 館	公共（市、町、村営）の体育館

25. クラブ内の目標（1～2つ選んで下さい。）

①	クラブ員の親睦を深める	⑤	楽しく皆で練習すること
②	クラブ員の健康を高める	⑥	特に目標はない
③	クラブ員の技術向上	⑦	そ の 他
④	試合に勝つこと		

26. 現在のクラブに指導者（コーチ）はいますか。

①	②
い る	い な い

27. クラブの練習には指導者（コーチ）は必要ですか。

①	②	③
ハ イ	イ イ エ	わからない

28. あなたのチームのレベル（強さ）はどの程度ですか。

①	非常に強い（県大会などの代表になったりする）
②	強 い（地区大会などで時々優勝する）
③	普 通（大会に出て勝ったり敗けたりの程度）
④	弱 い（いつも1～2回戦で敗退又は楽しみを目的としているチーム）

29. あなたの所属地区

①	②	③	④	⑤
県 北	県 南	い わ き	相 双	会 津

30. チームは学区単位又は町会単位で構成されていると思いますが、あなたのチームは主にどのような環境に居住している人々によって構成されていますか。あなた自身の場合についてお答え下さい

①	市 街 地（街の中心地、商店街も含む）
②	中心街から少し離れた住宅地
③	ニュータウンと称される郊外にある住宅地
④	農山村地区
⑤	漁 村 地 区
⑥	そ の 他

御協力有難うございました。